



昨年2010年には、下記に掲げたイベントを開催させていただきました。
定例になっております、新年会や総会も、毎年多くの参加者の方と、さまざまなゲストの方をお迎えし、多彩な関西演芸推進協議会を感じて頂けたことと思っております。4月からは、5年目を迎えます当協議会、初心を忘れること無く、関西の演芸文化の継承と推進、若手芸人の育成、そして我々、鑑賞者の学習と交流の場の創出に励み、更に充実した企画を考えて参りたいと思っておりますので、皆様のご参加および、ご理解とご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。



開催日	イベント	会場	内容・ゲストなど
●4月15日	推進会議	中之島公会堂(淀屋橋)	2010年度のイベント取組方針と計画について
●5月8日・9日	御堂筋オープンフェスタ・あきない祭	旧精華小学校(千日前)	漫才・落語・ストリートダンス・ゴスペル他
●6月24日	通常総会	スイスホテル南海・大阪(難波)	2009年度活動報告・2010年度事業計画案・活動記録の上映
●7月21日	交流ビアパーティー	ニューミュンヘン倶楽部・心斎橋(心斎橋)	ミニ講演会・中井事務局長・ミニライブ・ミス花子
●8月22日	芸術祭賞がやってくる	大丸心斎橋劇場(心斎橋)	一龍斎向水さん・榎田・水澤川計さん・講演
●10月10日・11日	大阪あきない祭2010	史跡難波宮跡(森ノ宮)	ゴスペル・ダンスチーム
●11月14日	演芸協会まつり	フッパホール(難波)	関西演芸協会60周年記念公演(2部公演)
●12月10日	定例勉強会	大阪産業創造会館(本町)	講演:吉本興業(株)執行役員 田中宏幸氏

上方演芸よもやまばなし (第7回)

日ごろ、気軽に使っている「演芸」という言葉。じゃあ実際にはどんなジャンルがあって、その成り立ちや特徴は...?!先日、そんな素朴な疑問が、スッキリ明解になる講座に出会いました。

話によると、演芸は大きく[漫才][落語][演曲][講談]そして[喜劇]に分かれるそうです。他にも漫談、マジック、腹話術、曲芸(神楽)、紙切り等等など。ここまでは知っていましたが、音楽をバックに漫画を描くジャズ漫画、女性が三味線や太鼓を使って唄や踊りを披露する女道楽(おんなどうらく)の存在は、知らず知らずのうちに知りました。また、上方では演芸同士の交流が多いのが特徴だそうで、東京ではそれぞれ別世界ののだとか。このあたりは、関西人の柔軟性の成せるところでしょうか。

たくさんの素晴らしい演芸が存在する上方(関西)は、他に類のない、豊かな文化を育む土壌であることを、私たちはつい忘れていた気がします。落語や漫才や喜劇が、いつでも好きな時に見に行けるのは、決してあたり前ではなく、とても恵まれたことなのだとしみじみ感じたひとときとなりました。

松井 あゆ子

関西の上質な演芸文化のために...

上方演芸の文化に触れ、共に育む活動を一緒にしませんか...

関西演芸推進協議会では、関西の演芸を盛り上げ、若手芸人の活躍を支援し、演芸の伝統を守り次世代へと継承していくために様々な活動をしていきたいと思います。あなたの入会で、まず一歩、参加してもらう一歩...と、おひとりおひとりの思いと存在がこの協議会、そして演芸会を活性化します。皆様のご入会はもとより、ご友人、お知り合いの方にもお声をかけただけでしたら幸いです。

■主目的

- 1 定期例会の実施
- 2 関西演芸大賞の設立
- 3 芸人のための劇場をつくる

■会員特典

- 1 定期例会に、会員料金が予約できる。
- 2 関西演芸推進協議会が企画する各種交流会、勉強会に参加できる。
- 3 会報誌の発行 (年3回)

■会費

入会金 個人会員 2,000円
賛助会員 20,000円

年会金 個人会員 年間1口 3,000円
賛助会員 年間1口 30,000円
※いずれも何口でも可能。

会員継続の手続きをお願いします。

会員継続のご案内をお送りしています。お届けております振込用紙に必要事項を御記入の上、会費の納入をお願い致します。

公式ウェブサイトもご覧ください。

<http://www.walive.org>



笑ライブ 第11号

walive

2011年2月

「笑ライブ」とは... 「笑」、「喜」、SHOW(見せる)=LIVEという意味と、「WA」の意味する平和の「和」、みんなの手を繋ぐ「輪」の思いから名付きました。

発行
NPO法人関西演芸推進協議会
編集部
〈事務局〉大阪市浪速区難波中1-10-4
千房株式会社内
TEL.06-6633-1430
FAX.06-6633-1435
<http://www.walive.org>
info@walive.org

INFOMATION

遅ればせながら、新年あけましておめでとうございます。2011年もNPO法人関西演芸推進協議会では、関西の演芸文化を盛り上げるための活動を「小さなことからコツコツと!」やっていきたいと思っております。協議会に携わって、4年。もうすぐ5年目に入ろうとしています。毎年多く、1年が早く過ぎるような気がしています。月日が早く感じるというのは日々、充実しているからと勝手に思い込んでおります。忙しい中でも「アイデアを生み出すカラダづくり(?)」を今年の目標に、跳ねる気のごとく運営スタッフもさらにパワーアップしたいと思っておりますので、皆様からの意見ご感想などもお気軽にお寄せくださいませ。

CONTENTS

☆新年賀詞交歓会	1頁
☆勉強会 講演:吉本興業(株)執行役員 田中宏幸氏 「今、吉本が考えていること」	2頁
☆関西演芸協会60周年記念公演 ☆2010年商店街イベント「出前商店」	3頁
☆1年を振り返って ☆協議会入会のご案内 他	4頁

新年賀詞交歓会 2011年1月20日(木) 於) 道頓堀ホテル 福娘を迎えて会員の皆様にフレッシュな笑福を...



福娘のみなさんは笑顔が素敵でした。

鏡開きは年男の皆さんで来福を!

小野幸親会長のご挨拶で始まった交歓会。続いては、年男の2名の方と難波八坂神社、金剛山葛木神社の両神社の宮司さん、前尼崎市長の白井さんによる鏡開きで、威勢良く樽を叩いて...「よいっしょ〜!」升酒での乾杯の音頭を浪曲師の三原佐知子さんによってご唱和頂きました。

イ・ヨンボさんの歌、高田瞳さん、TARAさんの新しいユニットでのデュエットも新鮮で、新年に相応しい宴席を飾ってくださいました。いつもは舞台上で演芸を披露いただく皆様とも近しく懇親させていただくことができ、和やかで素敵な新年の集いとなりました。



浪曲師・三原佐知子さん

関西演芸推進協議会 賀詞交歓会



おもてたい裏にびったりな男性4名と女性1名で樽を叩き鏡開き



優しくはんなり挨拶される小野幸親会長



TARAさんと高田瞳さんのデュエットは華を添えてーじゃんけんも新年初で威勢よく!



今回は89名の参加者

「今、吉本が考えていること」

1部：吉本興業 執行役員田中宏幸氏講演

京都大学卒業後、吉本興業に入社され、当時は黄色の吉本社員といわれた田中宏幸さん。桂三枝さんのサブマネージャーや明石家さんまさんのマネージャーをされた後、イベント・テレビ番組のプロデュース、東京支社長などの経歴を経て、吉本お笑い総合研究所所長・エリア開発センター統括部長を兼任されて現在、執行役員として忙しい毎日を送っていらっしゃいます。

「吉本」という響きから、お笑い＝芸人という印象が強く、どのような話をされるのか…と興味を持って受講に来られた方が多かったと思いますが、「吉本が考えていること」切り出されたのは大きく3つのテーマを掲げておられ、1つ目は「笑いと健康」の事業化。医療の現場でも「笑い」が病を治す効果があるという研究がされているとのことで、その研究や学会に、情報提供や事業協力などをされているとのこと。

2つ目は、「笑いと人材育成」。大学生や大学への就職活動のアドバイスや講演活動、企業での教育やワークショップの開催支援、教育者向けの講演や指導など、「笑い」が人材育成に役立つというスタンスから新しい発想として、多くの教育機関や企業などから注目されつつあるとのことでした。そして、3つ目は「笑いと地域活性」。街おこしや村おこしといった地域の発展を目的とした支援活動や事業化の活動がされているとのことでした。

明治45年「寄席経営」からの始まり～大阪のまちと人に感謝する～

そのひとつには、集客する目的とメッセージ性の強化という視点から「各地のおもしろい人を探していこう」ということを企画テーマにして地域の住民との接点と注目度を高めたり、ユニークな地域のお土産品などの企画開発など、様々な角度で「笑い」という活路を織り交ぜた事業を振興しているとのこと。一連の話から、吉本は舞台やメディアで「笑い」を演じるという枠組みに納まるのではなく、新たな分野に進出していこうとしているのだと、関心して聴かせて頂きました。

2部：中井専務理事とのトークセッション

第2部は、当協議会の中井専務理事と田中宏幸氏のトークセッション。あらかじめ田中氏に聴きたいという質問をスタッフで持ち寄り、選定して質問。話は異例だと言われた京大から吉本興業への入社経緯にはじまり、マネージャーに付かれていた明石家さんまさんとのエピソードなど…売れっ子芸人の知られざる努力の姿など、意外な側面を聴かせて頂きました。30年以上吉本興業で様々な芸人さんを見て来られて、「売れる」芸人は道徳的に何が違うのかという質問では、「お客様（特に若い女性）が本能的に寄ってくる芸人」こそ、売れるのだという。何をやって「売れるのか」なんて誰もわからない、お客様が決めるのだという。

テーブルごとのグループミーティングで盛り上がったワークショップ

第1部、第2部の話を聴いた後、同じテーブルに着いたグループで感想などを発表し合うという新しい企画を試みました。限られた時間内でのグループディスカッションで、話さけない程に話が盛り上がっているグループもあり、最後の感想や質問のコーナーでは、それぞれに感想を述べられ、講師の田中先生と受講者との双方向の意見交換がより充実した勉強会になったのではないかと企画・運営スタッフも嬉しく思っている次第です。また、次の勉強会でもこのスタイルを取り入れたいと考えていますので是非、皆さんのご参加をお待ちしております。

ワークショップでは話が盛り上がり

ビジネスマンからみた「演芸の世界」

最近、テレビのバラエティ番組を見ていると、一見いじめに見えるような暴言が多く、とまどう人も多いのではないだろうか。ビジネスの世界には「コンプライアンス」という言葉がある。年々許される範囲が狭くなり、何でも倫理や法律、ルールのもとで判断される。一方、演芸の世界は一見のどかで、自由奔放に見えるが実際のところはどうか。

先日の「今、吉本が考えていること」で、執行役員田中宏幸さんが吉本興業の演芸の舞台裏を少しだけ披露してくれた。「芸人は、決して素(す)は見せない。素もどきを作っているのです」テレビとは、五感にダイレクトに響く媒体で、受信者もまた等身大のものに共感を抱く傾向が強い。テレビで勝負する芸人は、このいかにも素のようなものを作れるかどうかにかかっていると田中さんは話された。ブラウン管という一枚の壁を隔て、その立ち位置を繊細に探っている芸人さんの努力も垣間見える。

売れっ子の明石家さんまさんは、いかにも天然で自由奔放であるが、実は非常に勉強家で、芸人堅気であるという。では売れる人とは、どんな人なのか。吉本では次に売れるのは誰かわからないというのが公式見解。芸があるのと人気は正比例しないのだという。

そういえば評論家の方は、あるべき理想の形を基準に評論するが、吉本では売れている結果を常に評価する。縦系と横系があるとすれば、縦系は視聴者満足(顧客満足)、視聴率(利益)、本人のやりがい(従業員満足)などにあたり、横系は時代背景、ニーズといったところであろうか。ビジネスと演芸には相容れない不可侵領域がありながら、次代へ上質なものを継承させるためには、ビジネスの視点も一方必要であることを再認識させられた。

(石井サト子)

どんなこと
考えてるの?

勉強会のはじめにご挨拶をいただいたのは、「てんもんや三度笠」の演出や「花王名人劇場」を企画し、漫才ブームの火付け役ともなった沢田隆治先生。現在「笑いと健康」を題材に講演や執筆など様々な企画をされているとのことで、笑いが自律神経や糖尿病にも効果があるということも話して頂きました。



中井専務理事とのトークセッション



ワークショップでは話が盛り上がり

関西演芸協会創立60周年記念公演
「関西演芸協会まつり」

2010.11.14 於) ワッハホール (12:00~・17:00~2部公演)

60年前といえば戦後の混乱期でテレビも無く、ラジオも満足に無い時代…そんな時代に創立された関西演芸協会。

36名の会員でスタートされた協会も、今や220名超。創立時に携わった方への感謝と、これからの演芸の伝承と発展を願い、記念すべき60年に会員の芸人の皆さんが力を合わせて公演を開催されました。さらには、下記にご紹介しております、関西演芸協会創立60周年にあたって「60年のあゆみ記念」パーティーも今年度開催される予定ですので、協議会会員の皆様もご参加ください。



関西演芸協会の創立60周年にあたって
「60年のあゆみ」日時:2011年(平成23年)を予定
～芸人とファンごちゃまぜ!笑いの渦の爆笑パーティー～
舞台上での楽しいイベントを色々企画中!
皆々様の多数の御来場を心よりお待ちしております。
後日、詳しい内容をご案内させていただきます。

パーティー実行委員会

2010年高店街イベント

「出前寄席」

2010年12月12日 於) 駒川駅前商店街

地域コミュニティの役割をになう商店街が、商店街の繁栄に演芸との共演を通じて、商店街の魅力発信しようと、今年度は駒川駅前商店街が「出前寄席」を行いました。

12月という盛り上がりシーズンで、地域の住民の皆さんも商店街でのお買い物をと足を運ばれ、同時に「笑い」、「感動」をお持ち帰りいただいたことと思います。

寒空の下ではありましたが、人のぬくもりを感じるコミュニティの大切さを実感した商店街イベントとなりました。



お買物の途中に足を止められて鑑賞されるお客様



出演いただいた
芸人のみならず
竹井輝彦さん
虹友美さん
左ミドルさん
シンデレラエクスプレスさん



竹井輝彦さん



虹友美さん



シンデレラエクスプレスさん

漫才師・正司玲児師匠が成人し細白血病リンパ腫のため十二月十日に七十一歳で亡くなられました。当協議会のイベント「笑ライブ」にも正司敏江師匠と共に出演していただき、イベントを盛り上げてくださっただけに、この訃報は私共も大変ショックを受けました。



2008年8月「笑ライブ」の舞台上で

笑
ら
い
ぶ

突っ込みと
ボケに学んだ
商人道

ボケ防止
寄席で笑えば
医者要らず
(マイケル二部)

その突っ込み、
「キッパター」っての
ないですか? (笑)

「会報誌」
誤字は笑いで
ごまかせず(汗)
(編集長)

「笑らいぶ」に皆さんも参加して
んか?お仕事や趣味の会報誌にボケと
かんたんに、狙って考えた大作(笑)・昔
作って温めていた作品などでも…
お気軽にお寄せください!